

Step 1

・本文の七つの場面について、過去／現在のどちらの時制の話を書き入れよう。
 ・また、()にあてはまる言葉を書き入れよう。

過去(回想)と現在のどちらの場面なのか、また、伏線につながる本文の表現を整理しよう。

時制

場面

本文の表現

(現在)

①

「人間は、(恥ずかしい)と思うようにできていますから。」と口にしてはつとする。二十数年前、同級生から聞いた言葉。

・同級生Ⅱ(タクジ)の顔と言葉が浮かぶ。六月十日に会おう。じゃあ、三十歳になったとき。

タク

・僕が(ヒューマノイドロボット)を作るとしたら、『飽きる』機能は付ける。」

タク

「(恥ずかしい)気持ちなんて要らないじゃないか。そんな(機能)があつて、何の役に立つんだろ。」

③

「(大勢の前で名前を呼ばれた)だけでも恥ずかしくなる。失敗したときだけではなく、(目立った)だけでも恥をかく。」

タク

「もし僕がヒューマノイドロボットを作るなら、人間の(恥ずかしい気持ち)を理解できるようにする。」と宣言するように言った。

④

・会議中、タクジが美術の時間に(転倒)した場面を思い出す。

タク

・タクジが(絵の具)を踏み潰し、チューブから色とりどりの中身が飛び出した。再びひっくり返り、近くの同級生に(カッパ)な滴が飛び散る。

タク

・タクジは立ち尽くし、耳まで(赤くなっていた)。
 「僕がロボットを作るとしたら、(転ばない)ようにはするね。」

「二十歳がダメなら、じゃあ、三十歳になったときにしようか。」とタクジの声が聞こえてきたけれど、立ち止まらなかった。

⑥

僕

・駅に設置されたディスプレイ広告「Ⅱ(カッパな絵の具)がはじける映像」が目に入り、頭の中を小突かれたような気分になった。「僕」は自宅とは逆方向に行く列車に乗り込んだ。

(現在)

⑦

僕

「このロボットは転んでも、自分で起き上がります。転ぶことはしかたがありません。(大事な)のは、起き上がることです。」という開発者の言葉に引つ掛かりを覚えた。
 ・開発者が「皆さん、友人が来てくれていました。」と言って、(僕の名前)を呼んだ。
 ・(観客席にいる人たちが)僕に注目し、僕の顔は(真っ赤)になっていたにちがいない。
 ・こちらに手を振るヒューマノイドロボットは、この(恥ずかしさ)をわかっているように、とうてい見えなかった。